

今月の

ピッコ
アッコ

生薬

6月

ちも
知母

高熱を出し、口が渇くときなどに
効くといわれています。



展示番号
No.36

今月は、知母(チモ)です。
タッチパネルモニターも
ご覧下さい。

使用部分 (つかうところ)

根茎 (こんけい)



地下にある茎のこと。
根そのものではありません。

中国北部の河北省が
主な産地です

産地 (とれる所)

中国、朝鮮半島など



用途 (どんな時に使う)

解熱、鎮静、消炎など

どんな植物

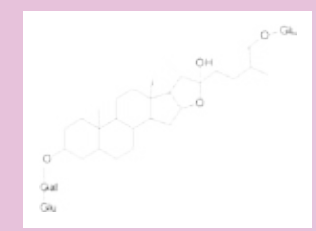
ハナスゲと呼ばれる、ユリ科の植物で、多年草。地上部は、0.5～1m位
になります。単独で生えるのではなく、群生しています。

花は、主軸に柄のない状態で咲きます(穂状(ほじょう)花序(かじょ))。
似たような花の咲き方としては、オオバコのような草があります。

生薬として扱われるチモは、このハナスゲの根茎(こんけい)と呼
ばれる部分です。これは根のことではなく、地中に埋まっている莖
のことで、そこから芽や根を出します。少しにおいがあり、かむと
甘味もあります。サポニンという石けんのような物質を含んでいて、
粉末を水に溶かし振り混ぜるとあわ立ちます。

化学成分：サポニン timosaponin

サポニンは、多くの植物に含まれる成分です。
例えば、名前をよく聞くような植物ですと、オリー
ブ、キキョウ、オタネニンジン、ムクロジなどがあげられ
ます。単一の化学物質ではなく、水に溶けた時に、石けんと同
じように水をあわ立たせるような性質を持つ物質の総称になり
ます。チモに含まれるサポニンには、チモサポニン A-I、II、
III、B-IIなどの種類があります。



チモサポニンB-II
C₄₅H₇₆O₁₉

来月は、No.30の辛夷(シンイ)を取り上げます。

※実際の医薬品としての効能などについては、薬剤師や、医師にご相談ください。